

6. 見られた生きもの

調査により確認された生きものは19～21ページの参考資料の表に示しました。

9門107種の生きものが確認されました。調査を実施した4カ所のいずれの調査地点にも出現した種や個体数が多く普通にみられる生きものについて写真でみてみましょう。

【刺胞動物】 クラゲ、サンゴ、イソギンチャクの仲間、どれも内部に毒液を満たした刺胞を収めた刺細胞が付いた触手を口の周りに持っています。

イソギンチャク目



磯の岩の上や割れ目に付着しているものや体が砂に埋まっているものなどがあります。体は柔らかく放射相称形です。口の周辺には刺胞を備えた触手を多数もっています。タテジマイソギンチャク、ウメボシイソギンチャクなどがあります。

【軟体動物】 巻貝や二枚貝の貝類やイカ、タコなどで、どれも頭部、軟らかい胴部（内蔵部）、筋肉質の足と3つの部分で構成されています。軟らかい胴部は膜に覆われ、その外側に殻を持っています。

アカニシ



内湾の水深10～20mに多くすんでいます。大形でこぶし状の貝です。殻口内は赤く、蓋は殻口をぴったりと覆い、半月形です。砂底にいて、他の貝を食べる肉食です。肉は食用となります。殻高15cm、殻径12cm。北海道以南に分布しています。

レイシガイ



殻高5cm。全体に黄白色の殻色で、こぶし状の節（ふし）が並びます。殻口内は燈黄色から黄白色。初夏に集団で密集して産卵するようすが見られます。北海道南部、男鹿半島以南に分布しています。

イボニシ



殻高 3cm、全体に黒褐～茶褐色の殻色で、節（ふし）が並びます。殻口内は黄白～黒。内湾域では節（ふし）が目立たないものが多くみられます。初夏に集団産卵がみられます。北海道南部以南の岩礁に分布しています。

ムラサキイガイ



殻長 5cm。殻は黒紫色。地中海産の外来種で、1930年代にすでに本州の港湾に住み着いていました。港のコンクリート岸壁などに多くみられますが、岩礁でも着生することがあります。養殖して食用にもなります。

ミドリイガイ



殻長 8cm、殻は薄く鮮やかな緑色を帯びた貝です。インド洋・西太平洋の熱帯海域原産の外来種です。1980年代以降、本州南部太平洋・瀬戸内海沿岸の各地の港湾に定着しました。

マガキ



貝殻で岩に固着します。黄白色で紫色のしまができます。内湾性で富栄養の海域に普通にみられます。水深の浅いところの砂礫底にカキ礁を作ります。各地で養殖して食用にします。北海道以南に分布しています。

サルボウガイ



ふくらみが強い形をしています。殻の内側は白色です。軟体部は赤みがあります。貝殻外側の溝のある筋はおよそ 32 本あります。貝殻全体にやや硬い毛が生えています。浅いところから水深 10m までの泥底にすみます。食用になります。

ホンビノスガイ



殻長 10 センチ前後になります。貝殻はややもろく、非常に厚い貝です。アメリカ大西洋側が原産で、1990 年代に東京湾に入ってきました。内房では多産するようになってきました。汚染にも強く東京湾奥ではありふれた二枚貝になっています。食用になる貝です。

【節足動物】 エビやカニの仲間です。体節の連続からなる体を持ち、それらがまとまって頭・胸・腹の 3 部、あるいは頭胸・腹の 2 部になっています。体の表面は硬いキチン質の外骨格で覆われています。

イッカククモガニ



甲長 3cm。歩脚が長いカニです。北アメリカ太平洋岸原産の外来種で、1970 年に東京湾で発見されました。有機汚濁の進んだ都市圏の港湾や内湾の砂泥底に多くみられます。東京湾から九州に分布しています。

イシガニ



やや大型の沿岸性または汽水性のカニです。甲長 45mm、甲幅 63mm くらいです。水際から水深 45m までの砂泥・砂礫・岩礁底に多くみられます。東京湾以南の各地沿岸に分布しています。

ケフサイソガニ



石の多い海岸や河口にふつうに見られます。成長した雄では、はさみの部分にやわらかい毛のたばがありますが、雌にはありません。北海道以南九州まで分布しています。

モクズガニ



川や河口にみられるカニで、かなり上流までさかのぼります。秋になると繁殖のために川をくだります。こどものカニが再び川をのぼります。食用とされますが寄生虫に注意が必要です。

【棘皮動物】 ヒトデ、ウニ、ナマコの仲間たちです。棘（とげ）のある皮膚を持っています。頭も尾もなく、腹面に口、背面に肛門があります。

サンショウウニ



内湾の砂底に多くみられます。とげは平たく、うすい紅色の地に紫褐色のしまがあります。このしまは根元から先端まで並んでいます。産卵期は夏で、6月下旬から7月に及びます。一般に食用とはしません。大きさは4cm、高さは2.5cmです。

イトマキヒトデ



岩礁性の磯ではふつうにみられるヒトデで、濃い青色から青緑色の地に橙赤色の不規則なまだら模様が目立ちます。腹面は橙色です。普通は五角形に近い形です。

マナマコ



内湾に面したところでは暗黄緑色から黒に近いものが多くみられます。日本では食用ナマコの代表であって、生食のほか乾燥させた「いりこ」も利用されています。ごろごろと石の転がった海岸浅いところや水面付近の砂のたまったところなどに生息します。

【原索動物】 終生あるいは幼生期に消化管の背側に脊索（せきさく）を持つ動物です。単体あるいは群体をつくり、終生浮遊生活するもの、他物に固着して生活するものなど、いろいろなタイプがあります。なじみのものでは食用になるマボヤの仲間です。

シロボヤ



体の後端で他物に付着します。体長 5cm ほどで体の色は白色または黄白色です。水深の浅いところから水深 80m の岩礫上や転石下などにすんでいるほか、ブイや岸壁など人工構造物上に多数がみられることがあります。

【脊椎動物】 魚類からヒトまでを含む動物で、脊椎すなわち背骨をもつ動物です。脊索を囲むように中軸骨格が形成され、前方では脳を形成します。生きもの調査では魚だけを調べました。

メバル



沿岸の岩礁域に生息します。小型の甲殻類や魚類を食べます。成魚は夜行性。雌のお腹の中でふ化した仔魚（しぎよ：魚の赤ちゃん）を産み出す卵胎生です。

アイナメ



底生性で沿岸の岩礁域や砂利底にすみま
す。体側には複雑なまだら模様があります。
産卵期は 10～1 月。雌は 1 産卵期に数回
産卵し、卵は雄がふ化まで保護します。雄
は 1 歳、雌は 2 歳で成熟します。動物食で、
ワレカラ類、ヨコエビ類、ゴカイ類、小型
魚類などを食べます。日本各地の沿岸に分
布しています。

ウミタナゴ



海藻が生える岩礁に多くみられます。5
～6月に13尾前後の仔魚（しぎょ：魚の
赤ちゃん）を産みます。肉質はやわらかく
淡泊な味で、釣りの対象魚としても人気が
あります。北海道中部から九州まで日本各
地に分布しています。

ネズッコ科



東京湾からはネズミゴチ、ハタタテヌメ
リ、トビヌメリなど 10 種の出現記録があ
ります。てんぷらの種の「メゴチ」といわ
れているものはネズッコ科魚類です。底生
であり、底生小動物を食べます。

アカオビシマハゼ



主に内湾に生息します。泥底の石やカキ殻
の下や隙間にみられます。産卵期は春から
夏。雑食性です。

ハゼ科



内湾から河川の河口にかけて生息します。河川の淡水域にまでさかのぼるものもいます。写真はマハゼです。河口付近の水深 2~10mの砂泥底に雄が巣穴を掘り、雌を誘い入れて卵を産ませます。

カレイ科



マコガレイ、イシガレイなどがみられます。写真はマコガレイです。北海道南部から九州大分県に分布しています。砂泥底にすみ、成魚はゴカイなどの多毛類、甲殻類、二枚貝類などの底生動物を食べます。産卵期は晩秋から春です。

マゴチ



眼が小さく、両眼の間に距離があることが特徴です。内湾や河口域の水深 30 m以浅の砂泥底にすみます。干潟域や人工海浜、砂浜海岸などの浅所で体長 1~6cm ほどの稚魚がみられますが、成長するにつれて徐々に深い場所へと移動します。

スズキ



体は長く上から見ると平らです。口が大きくえらぶたに強い棘(とげ)があり、体の色は銀白色で光沢があります。小魚や甲殻類を食べます。春~夏は内湾に入り河口にも見られ、冬は外海に出て岩礁で産卵します。セイゴ、フッコ、スズキと大きさによって呼び名が変わるので出世魚と呼ばれます。